

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300032		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームよしおか		
所在地	〒284-0032千葉県四街道市吉岡1803-5		
自己評価作成日	令和 5年 1月 21日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和5年3月8日	訪問評価	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染が拡大と減少を繰り返す中、外出行事が実施しにくい状況であるが、春のお花見や秋のコスモス、紅葉等折々に外出レクを取り入れる事が出来ました。また、納涼会やクリスマス会等、季節の行事を開催し、ご利用の皆様にご季節を感じていただく取り組みを行っています。ご家族様の来所に関しては引き続き、面会の条件はあるものの、可としていて、ご家族様も普段の様子を伺えるようになっており、利用者様にとっても良い環境で生活が送れているのではないかと考えられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍の中で、感染防止対策など一定条件付きで家族の面会を可能としてきた。家族の最大の関心事の入居者健康状況や暮らしぶりを面会時に説明し、写真掲載した一人ひとり宛の手紙・広報誌よしおか便り(毎月の行事掲載)、電話で積極的に情報を提供している。8月に入居者及び職員に感染者が発生したが、前施設長と全職員の協力で拡大は防止、運営面を乗り切った。今回の家族アンケートでも、昨年同様極めて高い評価を得ており、丁寧な支援と情報提供が高い信頼感と安心感を与えていると思われる。前施設長が今年1月に異動し、2階管理者が引き継いだ。今後も全職員による満足度の高い運営の維持を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度スローガンの掲示・理念及びその実行方法を掲示し、毎月の会議などで職員皆で唱和し理念を共有し実践に繋げております。	「その人らしい生活が送れるよう笑顔で寄り添う施設」の理念が実践出来るように、全職員で会議時に話し合っている。入居者の高齢化、介護度が高く、車椅子利用者が多い状況下でも「断らない介護」に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年に続き、コロナ禍のため前年と変わらず地域との交流ができていない状況ですが、今年度もR4.11月にzoomを活用した「地域ふれあい交流会・落語鑑賞会」に参加させて頂きました。今後も可能な範囲で参加をしていきたいと思えます。	コロナ禍のために自治会や地域住民との交流は自粛しているが市主催の多職種連携体験会のZOOM研修に参加した。今後は地域との連携活動再開に取り組む予定である。施設長交代の挨拶回りで各関係先を訪問した際にも話し合った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりオレンジカフェの開催ができずにいます。9月に社協の依頼で前施設長による認知症講演を実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2.4月より運営推進会議は中止となっております。市のご担当者様とも相談しながら開催時期を見計らっております。	運営推進会議は市の意向もあり開催は中止し、1年間の運営状況(入居者情報、事故・感染状況等)を取り纏めて、市・包括支援センターへ提出している。今後の再開は市と打ち合わせ中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大の影響より運営推進会議を中止しておりますが、行政へ運営状況の報告を送らせて頂いております。	市の窓口は高齢者支援課であるが、運営推進会議中止の為に担当者の来所はない。入居者の介護認定変更、生保受給者の諸手続きのために、都度、高齢者支援課や、包括支援センターを訪問し打ち合わせを行い、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時や年に2回、身体拘束適正化の取り組みに関する研修を実施し、身体拘束等適正化検討委員会を毎月開催して、「不適切なケア」などその都度検討を行い、職員への指導と周知を行っております。	身体拘束等適正化検討委員会を毎月開催、議事録は全体会議で内容を確認した後、本部へ提出している。研修会は入職時及び年2回開催しており、過去5年間拘束した事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や、毎月行われる全体会議などで「不適切なケア」についても職員への指導を行い、防止に努めている。また、職員間において検討しながらお互いが虐待に対して注意を払っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の理解については職員も知識が薄い為、研修など行って学ぶ場を積極的に作って行きたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学やアセスメントの段階で、不安や不明な点を確認し、ホームでできる事できない事を説明させていただいています。契約時は入居契約書・重要事項説明書・利用料金表・運営規定等を対面読み合わせにて実施しており、都度質問や意見を伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートなどにて要望・意見をおききしたり、ご家族様来所持に直接申し出て頂くようにしております。その都度改善できる事は改善に努めるように取り組んでおります。	コロナ禍における家族の最大の関心ごとであるホーム運営、利用者の暮らしぶりの情報提供に努めており、今回の家族アンケートでも高い評価となっている。家族の面会時や電話等で要望・意見を積極的に聞き、改善に活かしている。	1月に前施設長が交代(異動)したが、引き続き家族との緊密な信頼関係のもとでのホーム運営に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロア会議や定期的な職員面談において、職員の意向を確認しています。連絡事項や決定事項はコミュニケーションノートを活用し、情報伝達に努めています。	良き職場環境、コミュニケーションづくりに努めており、会議(全体・フロア会議)の場で、意見を聞き運営に活かすように努力している。常勤は年に2回、非常勤職員は年1回のヒアリングを行い、職員の意見を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社担当部署(運営事業本部)への高頻度の連絡体制が整っており、勤務状況は代表者が把握しやすい環境下にあります。そのうえで、働きやすい環境作りにも、最善と思われる努力を継続しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では職員に担当を割り当て、資料を作成し講師として他の職員の前で発表しています。また毎月の委員会活動での役割も担い、視野を広げる取り組みを図っています。今後、認知症実践者研修の受講を希望する職員に進めていこうと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により他施設との職員間の交流ができておりませんが、管理者の立場で市内の他のホームと繋がっており、情報交換は行っています。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配などのお話を引き出せるような環境作りを最優先に考え、些細な言動や態度も見聞き逃さない様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の段階より不安、心配な点はお伺いするように努めています。ご家族の意見や意思を尊重しながら、適時ご提案もさせていただきますようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居間もない間は、何より本人様の不安を早く取り除けるよう、職員間で情報共有をはかり、ケアに繋げています。適時外部機関(訪問リハビリ等)との調整も行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、館内掃除、食器拭きなど、家事全般に役割を持っていただけるよう支援しています。また、イベントなど通じて楽しみを共有できるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えています	面会など、新型コロナウイルスの感染が懸念されておりますが、感染防止対策と面会時間短縮、面会場所を限定するなど行いながら、できるだけご家族様の意向を考慮し社会から隔離するのではなく普段と変わらないように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、利用者様の年齢と介護度も上がり、本人様のご意向を把握するのも難しいところですが、コロナ禍でもあり、外出支援が難しい状況ですが、お正月にご家族と家に帰られた利用者様もいます。	コロナ感染対策を行いつつ、家族と面会を行っており、正月に家族と外食に出かけられた方や孫の結婚式に出席予定の利用者もいてコロナ禍にあっても出来る限りの馴染みの人との関係を継続出来るように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりや生活を見ながら定期的にリビングの席替えを行ったりして同フロア内の利用者様同士の関係向上に努めておりますが、個々の性格や認知症周辺症状などによっては難しい方もおられ、個別での対応を行っております。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、自宅復帰は今までありませんが、ご相談は柔軟に対応させて頂きたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行している方が多くなってきて意向や思いを把握する事は難しくなっていますが、本人様の表情や仕草を観察し、穏やかな気持ちで過ごしていただけるよう寄り添うケアの実践を心掛けています。	心不全等の疾患のある方の体調や表情の変化に注意しながら対応している。重度化に伴い、本人が直接的に思いを言うことは困難な場合が多く、声掛けをしつつ本人の表情から読み取ることが多くなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常勤職員が定着し、ご利用者様の性格や生活歴なども日々の関わり方から理解と周知が出来て、普段の会話の中で安心感を持っていただき、ケアに活かしていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回カンファレンスを行い情報共有を共有し、体調や新しい発見等日々のケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やフロア会議を活用し、本人が主体性を持てる介護計画となるよう努めています。	家族に意見を聞き、フロア会議で職員と話し合い検討して介護計画を作成している。職員は援助内容を実践しており、日々の記録にその実践内容を記録する工夫があり活かされた介護計画になっている事は特筆に値すると思われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の心身の状態の変化など日々の職員の考察、関わり方や声掛けについても職員間での情報が共有できてきたのではないかと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の残存機能や能力、ADL状況を把握して、無理なく関わられるよう参加、実践に努めています。本人様の希望により毎週末にスポーツ新聞を購入しにコンビニまで行き競馬を楽しんでいる方もいます。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様の希望なども考慮し、地域における外部サービスなども考慮はしておりますが、現在、コロナ禍につき、一般の方との接触が多い職種については控えて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療の機会までにご家族やご本人の意向や状況を確認し、お伝えしているようにしているほか、ご家族にもお声掛けし、可能であれば同席してもらうよう促しています。また、先生のお話しなどお手紙を通じてお知らせいたしております。	訪問診療医をかかりつけ医として、全員が受診し24時間対応が可能である。同医師はホーム真向い系列病院内科医も兼任しており、検査や入院など適切な医療を受けることができる。訪問看護の毎週の訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは気さくに話せる環境下であり、利用者の細かな変化などにも適切な指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は徳洲会病院になる事が大半だが、コロナ化の為、面会ができず、情報のやり取りがご家族になってしまっています。退院時に情報提供書を作成していただき主治医が早く診療情報を把握できるようお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化指針、看取り介護指針の説明を実施するとともに、状態悪化の傾向がみられる場合には早期に意向の確認とケア内容の精査に取り組んでいます。	契約時に重度化した場合や急変時の対応について説明し同意を得ている。重度化した場合には医師から具体的な説明をし、看取り介護について家族の意思を確認している。これまで2名の方の看取り支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を通じて急変時の対応やBLS研修を行い職員のスキルアップを行っております。また、急変など判断に迷われる職員も多いため、管理者がフォローに入り実践を通じながら学んで頂いております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災被害については日中、夜間を想定した避難訓練を年2回実施。非常災害対応など施設内研修にて職員の意識を高めております。災害においても災害時の対応など研修や地震時の避難訓練など周知しております。	6月に地震想定自主訓練を、1月に消防署による避難訓練を実施した。向かいの病院に地域消防団員が勤務しており連携を取れるようにしている。食品と水、衛生用品、紙皿とコップ類などの3日分を備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人間関係を重視し、入居者ひとりひとりに合わせた声掛けや対応を表情や言動を観察しながら実施しています。毎月のフロア会議の中で個別にカンファレンスを実施しています。</p>	<p>トイレのドアを閉めることや入浴時の脱着衣時にバスタオルをかける等、羞恥心や尊厳を配慮したケアを実践している。利用者の表情を見ながら言葉かけよう心掛けている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人様の生活リズムに合わせてながら、自発的な日々のお手伝いやレクリエーション参加等参加していただいています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用年月が長くなり、高齢化、重度化が進んでいますが、表情や言動を読み取りながら、一人ひとりの生活リズムに添った暮らしが送れるよう考慮しています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整髪、着こなしなどには配慮しています。私物に関しご本人からの訴えや、日頃の言動の中で気になる点があれば、職員からご家族へ連絡、相談をさせていただいています。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様に盛り付けや、野菜を切っていたり、片付け(食器拭き)など職員と一緒に取り組んでいます。おやつ作りなど食レクを皆楽しみながら参加されています。</p>	<p>食事は調理済み食品をメインにしている。料理好きな利用者に台所での米研ぎ、味噌汁用の野菜切り、利用者の座席での食器拭き等を工夫しつつ職員と一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>嚥下状況、水分摂取量等は細かく記録している。摂取動作についても気が付いたことは毎日の申し送りや毎月のカンファレンスを通して職員間で共有しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>本人が出来ないところはお手伝いさせて頂き、お声掛けなどしながら実践。また、訪問歯科を受けられている利用者様もおられ個別ケアができています。</p>		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の無い方も出来る限りトイレでの排泄としていただけるよう、適宜お声掛けを行い取り組んでおります。ADLの状態により個別ケアを実施しています。	日中と夜間の利用者一人ひとりの具体的な排泄介助の個別支援内容が計画書に記載されている。それに基づきトイレ誘導を行いその都度ホットタオルで清拭をして清潔保持を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時水分摂取量の調整、訪問診療医指示のもと下剤のコントロールを実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴日は固定せず、利用者様のADL状態など考慮しながら、本人様の希望に合わせて入浴支援を行っております。利用者様が入浴を嫌がるような時は気分が変わるのをまったり、職員を替えたりしています。	週2回の入浴を基本にしており、利用者が入浴したい気持ちになった時を模索しつつタイミングを合わせている。利用者の重度化に伴い安全な入浴を行うために2人対応で介助することが多くなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中などは体調や状態を考慮しつつ適宜本人様の希望で横になっていただいたり、夜間就寝中は安否確認もかねつつ良眠を妨げぬよう配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に服薬担当の職員が他の職員と薬を確認し、本人様の前で日付、氏名、いつの薬(朝・昼・夕)かを唱和し、誤薬を予防しています。内服情報はひとつのファイルにまとめ、変更があった場合にもすぐに確認できるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化、重度化が進んでいるところですが、季節の行事を大切にしながら楽しみのある生活を送っていただけるよう心掛けています。介護計画の中で生活歴などを考慮しながら役割を担っていただけるよう盛り込んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園など人混みを避ける形で散歩に行ったり、個別で近所のコンビニまで職員と一緒に行かれたり、個々の希望を反映した支援を取り組んでおります。普段外出が難しい方に対しては中庭での日向ぼっこやイベントも行っています。	車椅子利用者が大半であり大勢の外出が困難な中、花見や紅葉見学に少人数でドライブ出かけた。毎週末にコンビニに職員と一緒に新聞を買いに行く方、家族来訪時に散歩に出かける方もいる。訪問評価日にはきれいに整備された中庭で皆で日光浴をしている姿があった。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望等もあり、お金は持ってもらっていません。嗜好品等の購入は施設の立て替えで実施、購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも可能にしております。入居当初は「電話をかけたい」と訴えられる方もおられますが、ひと月もするとホームでの生活にも馴染み、訴えは治まる事がほとんどです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや装飾を行い、四季を感じていただけるける様努めています。	リビングは陽当たりが良くその他共用の空間が分かりやすい配置になっている。季節の作品飾りが程良くディスプレイされており明るく楽しい雰囲気となっている。ソファでは利用者それぞれにくつろいでいる姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、他の方と談笑できるように本人様の意向を重視しつつ、フロア環境を作っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の予防等安全に生活できる空間ということも考慮しながら、本人様が生活しやすいように家族と相談して家具の配置等考えています。	利用者が安全に移動できるようにベッドと家具類を配置している。自宅で長年使用した鏡台、人形や家族写真、レクリエーション時の作品などがあり落ち着いた過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お歳と共にADL機能も落ちてきておりますので安全配慮を行ったうえで、必要以上の干渉をせず、表情や仕草、言動の観察で読み取る努力をしています。		